



NPO高知県
日中友好新聞

2021年7月1日

No.70号

発行責任者 岡林俊司

編集人 近藤浩一

NPO 法人高知県日中友好協会

〒780-0870 高知市本町4丁目

1-37 丸ノ内ビル1F8号

TEL : 088-825-0011 / FAX : 088-825-0513

nichu-kochi@movie.ocn.ne.jp

<http://kochi-nichu.com>

2021年度来高・中国人留学生新入生

歓迎会の報告【オンラインで(4月29)で実施】

共催：高知地区中国留学生学友会
高知工科大学中国留学生学友会

報告者：高知地区中国留学生学友会 副会長 廬沢林

いつもお世話になっております、高知大学、高知県立大学、龍馬学園国際デザインビューティーカレッジの高知地区中国留学生学友会です。

今回の新入生歓迎会では、高知大学、高知工科大学の両会長の紹介から始まり、それから学友会の会員の紹介をしました。それから両学友会が今どうゆう状況なのかを新入生に説明し、各学区の紹介動画を視聴し、南海トラフ地震に備えるべく防災動画を新入生の方々と共有しました。さらにNPO高知県日中友好協会の岡林俊司会長さんや中国語会話講座の方々から中国語で送られたメッセージとNPO高知県日中友好協会の学生代表理事・入江康平（高知工科大学）さんのメッセージを一緒に視聴しました。

NPO高知県日中友好協会と学友会の関係を説明し、役員の田村信雄さんと西岡史雄さんが高知の二つの学友会にその活動経費として4月に10万円の寄附をして頂き、本当にありがとうございました。各学友会よりお二人に感謝状を贈呈致しました。去年はコロナウイルスで大変な1年ではありましたが、NPO高知県日中友好協会の方の助けもあり、高知にいる中国人留学生は大変助かりました。学友会は学生の団体ということもあり、ひとつの団体だけでは留学生を支援するのに限界がありますが、NPO高知県日中友好協会のサポートがあることでさらに留学生たちを支援することができ、大変助かりました。感謝する限りです。

今後も皆様方と手を携えて日中友好のために努力する決意です。

5月末の小夏祭りへのご案内もありまして、参加するので、是非よろしく願います。

今回の歓迎会では、高知にきたばかりの新入生たちが学友会役員たちの紹介で高知での生活のイメージが湧きました。新入生にとってもとても有意義な2時間となりました。



感謝状を贈呈

以下は新入生から頂いたコメントとなります。

黄 炳南：

中国出身の1年生の黄炳南（こうへいなん）と申します。2019年人情の熱い高知に来ました。今年の四月高知県立大学に入学し、学友会に入りました。色々なイベント参加し、学生みんなのための色々なイベントを計画し、皆様が大学生活を楽しみ、いつまでも覚えていられるようなものにできるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

張 瑜婧：

高知は思ったよりもっとにぎやかです。学友会と学生の距離も近くて、常に様々なイベントを開催します、とても幸せです。

孫駿林：

こんにちは!私は高知工科大学大学院情報コースの修士二年生で、孫駿林と申します。今の専攻はヒューマンコンピュータインタラクションです。緑豊かなこの大学に来て半年余り、私自身の心境もずいぶん変わってきました。最初は無目標に勉強していたのですが、だんだんと自分の勉強、キャリア、生活のバランスがよくなってきました。

この経験は省略して、結論を出しましょう。

まず人間として、自分のごく普通の社会の一員であるという卑しさを持って、

その感覚の下で自分を叱咤激励し続けることができ、

「今日はテストが終わった！ちょっとリラックスしよう」という怠惰を常に捨てることができました。そして必ず自分の志を立てなければならない。この志は遠大ではあるが、触れられないわけではない。たとえば私の箇人的な目標は産業界に行って、私のメンターが教えてくれた人機共協の思想を実践することだ。

このように大きな目標を決めたら、次は目標を細分化します
一歩一歩実現していく。

例として、私は目標を細分化したら：1. いくつかの仲間とチームを組んで最初のゲームを開発し、steam で販売する準備をしています、このゲームは現在順調に開発されています 2. 資金が十分にあれば、人と機械の協働による思考を中心としたソーシャルアプリを本格的に商用化する。

その過程で、私の個人的なプログラミング技術やデザイン能力も向上し、これらの目的がすべて達成されなくても、ゲーム会社に就職し、自分の考えを実現し続けることができると思います。

さて、ここまでで2年近くの目標と、どのように細分化していくかという部分はほぼ終わりです。

次はその実施方法です。

私達はこの2年の時間の中で、必ず授業、学術、自分の計画、リラックスなどの事項のバランスを保たなければいけない、私は自分で彼らに20、35、40、5パーセントの値を割り当てます。私たちは授業や学問と自分のことをやっているときに、どこまでやればいいのかかわかるようになると、無駄なことに時間を費やすことがなくなります。もちろん一番大切なのは、失敗して、疑われて、理解されなくて、孤独が日常茶飯事という事実と直面する十分の心構えをすることです、頑張って、最後の一生は何もできなくても、戦った証拠があったよ！ そうではないのか？自分の理想のために！

前向きに考えてみると、一方の方向に真剣に取り組み続けていけば、結果はほとんど悪くないです。

一万年あまりにも長く 朝夕を争う！

だから頑張りましょう！自分の目標に向けて、ゆるぎなく努力しましょう。

*注：今回、各大学に入学した新入生（36名）たちは、今年の四月に中国から日本へ入国したのではなく、京都や東京や大阪などの日本語学校で一年間日本語を勉強し、日本で大学受験し、高知にきたのである。

新入生歓迎会後に、学友会の方から、生活支援として新入生たちに、一人1000円の商品券を配布しました。

5月30日(日)予定の小夏狩りは中止に!

(少人数で収穫し中国留学生に配布)

常任理事 田村信雄

去る5月30日(日)に予定していた仁淀川町森地区・小夏狩りは県の新型コロナ特別警報が発令され、連日30名近い新規感染者が報告される事態となり、誠に残念ですが中止といたしました。高知大、県立大、高知工科大の中国人留学生を中心に日中の大学生が30名、会員、協力者10名の合計40名近い参加希望がありましたが、当日、農園主の田村と家族、会員、手伝いの申出のあった高知地区中国留学生学友会の役員3名の合計6名で小夏約500個、南高梅20kgも収穫し、小夏は高知工科大、県立大(池キャンパス)高知大農学部物部キャンパス、高知大朝倉キャンパスの中国留学生に全て配布しました。小夏は完熟しており味もよく、留学生たちより、もう少し欲しいと希望が寄せられるほどでした。日中の学生は登校も制限され、不自由な状況で学生生活を送っていることにより今回の野外の収穫作業や参加者の皆さんとの昼食、中津溪谷の探索を大変楽しみにしていました。小夏も南高梅も今年は裏年で収穫量は少なかったですが、来年はより多くの収穫が期待できます。全て無償で提供しますので、日中の大学生学友会が自主的に行事の計画を立てて欲しいと思います。

その他の活動報告として、4月に中国留学生の転居に伴う荷物の搬送を2件、大型荷物の搬送を3件、無償のボランティア活動として行いました。

藤原充子顧問より提供のありましたスチール製の本棚一台も中国留学生に貸与しました。

また、前回の会報で紹介しました“チリ紙交換”の(有)大前田商店の前田薫社長より中国留学生のアルバイト雇用についてあたたかい申し出があり、前田社長の友人であり、会員の松岡由紀彦さんと留学生が面接に会社を訪問しました。前田社長には今後ともよろしくお願い申し上げます。

※会員加入の呼びかけをお願いします。